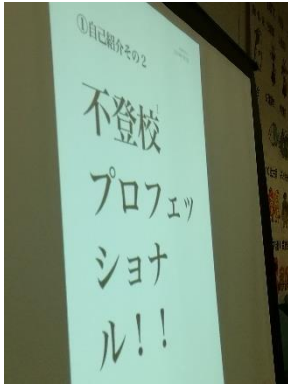
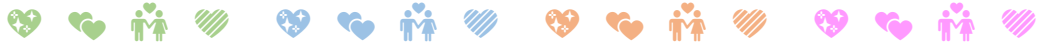


不登校プロフェッショナル asamicron 登場

不登校と朝ごはんダンスの今を語る



去る7月7日の横須賀子ども若者応援団ではゲストを招いて、新代表：龍崎明信さんを中心に新企画でスタートをしました。不登校やひきこもりの当事者を含む交流会から、その先の学びを進める新展開(P5参照ください)への取り組みが始まりました。その第1弾ゲストの講演&公演をフューチャーして、2回連載でお届けいたします。久しぶりに22名を超える会員+asamicronさんご家族&友人が集まりました。不登校現象をふきとばす、プロフェッショナルの人生表現を堪能ください。



私はアサミクロ(asamicron)と言う名前ダンサー兼アーティスト活動をしています。1986年神奈川県横須賀生まれ漁業町で育ちました。あまり学校に行かず小学校時代はオリジナルラジオ(シナリオ)を作ったり好きなドラマを文字に書き起こし再現するなどし、近所の友達とは軽トラの荷台を舞台に踊っていました。その後、妹とダンス界へ進んで行きます。近年は朝ご飯をテーマにギャラリーでしたり公演やイベントで踊っています。イベント関係者におくるプロフィールやホームページに載せている自己紹介を引用し、そして今日は「不登校プロフェッショナル」と呼ばせて頂きお話したいと思います。

こんなんでもこうなりました

本名を松井麻美と言いまして、今33歳で家族は4人、両親と妹がいます。プロフェッショナルとはどういうことかと言いますと、小学校1年生の6月ぐらいから中学校3年生まで、行くべきを決められた指定の学校には行きませんでした。今日はどうしてここにいるかと言いますと、こんなんでもこうなっていますという思いを話したいのと、龍崎さんと滝田さんに声をかけて頂いたのがきっかけです。龍崎さんとのイベントがきっかけで出会うことができたんです。その龍崎さんが投稿した facebook の写真に滝田さんが映っていて「えっ」で…。滝田さんは、私が学校には行っていなかった時に適応指導教室にいらっやって、遠足とか行くとたまに会う先生だったんです。そこで「くしゃ」と笑った写真の優しい先生だなと覚えていて、そこから今の思いを伝えるには滝田さんと繋がったらもしかしたら何かあるかもしれないと龍崎さんに声かけをして今につながります。今日は不登校プロフェッショナルとして、ここに座っている今までの過程のことを話していきたいと思っています。気楽に自由に聞いてください。



講演最後のパフォーマンスする松井さん 次号詳細

ちんどん屋幼稚園???

上町灯ろう夜市 by 川辺

義務教育の足跡ですが、ちんどんや幼稚園から話したいんです。私は学校に行っていなかったんですけど、別に人が嫌いでも集団が嫌なわけでもないと思います。私が通っていた幼稚園がめちゃくちゃ楽しくて大好きだったんです。自分で言うのもなんですけど、幼稚園では私は結構アイドル的存在(「ウフウフ」と車いす参加の固有の障がいの M.H.さんが笑い出す)だったんじゃないかと思っていました。「あっちゃん(=麻美)ピアノやろう」「あっちゃん砂場行こうよ」と言われ、右手左手を引っぱられ私の中では「私が二人いたらいいのに」と上から目線で「結構人気ジャン」と。で、幼稚園の先生が可愛くて大好きで、「何て可愛いお姉さんなんだろう」と思っていたし。幼稚園行事、遠足とかプールとか全体的にすべてが楽しくて、自由に過ごしていた記憶があります。じゃあ何がちんどん屋幼稚園なのかと言いますと、後々知ったんですけど、幼稚園によっては保護者の方にお楽しみ会とかクリスマス会とか発表会をするとき、すごく楽器の練習とか演技の練習とかする幼稚園があるんだと。私の通っていた幼稚園は、お父さんやお母さんと呼んで「じゃあ発表会をしましょう、みんなに見てもらいましょう」と楽器演奏をするんですけど、私たちは本番当日まで一度も練習していないし、「じゃあどうぞ！」と言って好きな楽器をトライアングルを司会もやって。でも演奏はひどいものでまどまり感がないんですけど、めちゃめちゃ楽しかったのを覚えています。笑っているお母さんたちがいて、あまりにもまどまり感がないのでちんどん屋さんには失礼と思いますが、ちんどん屋みたいな幼稚園、自由すぎる場所だったんだなという記憶がわたしの中に残っていました。



謎の配列 明日から行きません 小学校に入ります。幼稚園がそれだけ楽しかったんで、小学校はイメージ的にはワクワクでした。入学式があり教室に入り「何で誰も笑っていない空間なんだろう」という第一印象を持ちました。謎の配列、同じ机が並んで正面を向いて45分と言う状況にまず理解ができなくて、「何で同じ方向を向いて同じ時間を過ごさなければいけないのだろう」と思ったところです。この謎の配列は私にとってはさらに給食になるんです。幼稚園はお弁当、給食がなれていない状態でした。係の人が配膳します。ルールとして「残すものがあれば最初に減らしてから自分の机に持って行ってください」と、それがよく分からなかったです。まだ食べてもないのに、私は好き嫌いがなく食べるのが好きだったのに、食べてもないお腹いっぱいでもない、どれ位食べられるか分からない、最初の段階でそんなのはわからないし…。…減らさないでいたら、お腹いっぱいだし食べられない、でも取ってしまったから食

松井さんのお話を聞く横須賀応援団



べなければいけない。同時に給食時間が葬式みたいな空気感になって……。吐きつづける子、泣いている子、よく分からないこのシステムの毎日でした。先生は毎日怒鳴り散らし、クラスの記憶は笑っている子がいないくらい残酷な毎日の時間だったんです。他にも原因があったと思うんですけど、ある日の帰り道「こんな場所(学校)に行く意味がないな!」「まあ～いっか…」とおそらく思って、「明日から行きません」と家族に言った記憶があります。

明日から行きませんと言っても小学校1年生の2ヶ月ちょっと行った子が家族に言ったところで、「何か嫌な事があったのかな…まあまあまあ」とか言う反応になっていたのか。でも私は1日、2日、3日、一週間ひとこと言って学校に行きませんでした。だんだん「いやいやいやいや…」と周りになっていいきました。まだ不登校？登校拒否？ひきこもり？はポピュラーではな状況でした。まして私が通っていた小学校では一番初めに学校へ行かなくなったのが私しかなかったもので、学校も「どういうことだ。大変な事態になってしまった」というような感じを受けていました。でも、こんな空気の中で頑張る必要もないと思いました。最初は自分の意思表示として「明日から行きません」と言ったつもりだったんですけど、だんだん学校サイドや家庭が「大変な状態だ」と変わり始め、まずいことになってきたという雰囲気になりました。

先生に熱くハグされた瞬間、二度と学校へ行くのは止めよう

ある日、学校に行く時間に一階の父方祖母の家に逃げて隠れたんです。祖母が「麻実ちゃん先生来てよ」と、私は“こもる”みたいな感じで逃げたと思うんですけど、ガラガラと担任の先生が綺麗めなかっこをして玄関に立っていたんです。「待ってたよ、大丈夫だよ」とハグされて、「みんな心配しているし、大丈夫だよ。先生ごめんね、大丈夫だから。ちょっとだけでも来てね」とさらに熱くハグをされ、その瞬間私は二度と学校へ行くのは止めようと思いました。

言い方が悪いんですけど幼稚園に憧れていた私は、まるで演劇・TVの“渡る世間に鬼はなし”に出てくるような脚本？子どもながらに演技しているんじゃないかと思えて泣いたんです。「絶対行かない」と決意した瞬間でした。ハグされたんですけど、それが本格的な不登校。

ユイちゃん和三河屋とおじちゃん

イメージ映像です



行ってないからといって全く友達がいなかったわけではなく、ユイちゃんと言う子は近所に住んでいた同い年の女の子で、彼女がずっとパイプ役をやってくれていました。プリントや提出物とか尿検査キットみたいなものを出してくれたり、宿題や学校からのお便りなど学校へ出さなければいけないものをほぼ毎日やってくれたんです。私は14～15時までは母に申し訳ない気持ち、具合が悪い訳ではないけど「具合が悪い」的な感じでひっそりと家で日中過ごす。ユイちゃんが学校から帰ってくると必ず遊びに迎えに来てくれて外に出ました。ユイちゃんにも妹がいて私にも妹がいて、近所に男の子とかいてユイちゃんを筆頭に外に連れだしてくれる子がいたから遊ぶ友達がいました。みんなで三河屋と言う駄菓子屋さんにお菓子を買って行って遊ぶ。夕方18時ごろになると毎日ではないんですけど新聞屋のおじちゃんがきて「今日は8人だね」と、うまい棒かゼリーをくれてそれが嬉しかったです。幸いにも友達が嫌だなぁという経験もせずに。

三間を持っている子、麻実ちゃんは その期間に教育研究所に行って、今は亡くなったとても素敵で面白い女性の先生に面談していただきました。「麻実ちゃんは三間を持っている子だよ」と言われました。三間とは、時間と空間と仲間の三間なんです。今まで必死に生きてくる中であまり考えたことがなかったんですけど、振り返ると時間はあったし、ユイちゃんもそうですが学校へ行かなくても今日もまた仲間はいたし、前述近所の遊び場や今日のこういう空間もあったし、確かに三間はあったなと改めてあの先生の一言を思っています。今も昔も「そういう日々を過ごしたな」と思い出します。

そして母は忍者になった

とは言え学校へ行っていないんですから、平和なわけはないんです。もう大変なことになっていました。どんどん家が黒くなっていく感じというか、グシヤグシヤニなっていることが日に日に増していきました。家族がどんどん変わり始めるんですね。意思であった登校拒否、学校へ通う意味が分からないと拒否したことで、周囲のあまりの変化に私がびっくりするんです、「まじかよ」って。凄いことをしたんだと。私自身幼稚園の時ひょうきんだったけど、だんだん「やばい、やばい」という感情が、違うとは思いますが「もう死んでしまいたい」と強迫神経症のような状況になっていきました。どういう状態かと言いますと、普通に外にご飯を食べに行こうとして、でも嫌いなものがあるかもしれないから「出れないな」と。行かないと、どんどん笑わなくなってきました。



ある日両親がめちゃくちゃケンカをしていました、うわーっと言い合いをして。リビングにいる妹と私と父に向かって母親が台所から皿を投げてきて、それがバンバンバンと割れて、こっちは時間が止まったように「えっ」という感じになったんです。綺麗にこういう(手裏剣を投げるように)感じで投げてきたのを覚えています。バリンバリンバリンと割れて、「超怖っ、やばっ」とびっくり過ぎて止まって、その時の父親の姿を覚えていないんですけど、とりあえず床がバリバリバリのお皿が散らかった状態でした。思い出の母は完璧な母だったので、幼稚園の頃のクリスマスのチキンにはリボンが飾ってある、私の誕生日に友達を呼んでパフェを作って、またウズラの卵でお内裏様と雛様の顔を作ってくれるぐらい。その母が忍者になるんです。「やべェ」となって、どうやって終わったか覚えていんですけど、破片を妹と父で拾ったことは覚えています。



最終的に爆発して泣いたトピックです

だんだん私は母に依存の関係になっていきます。日中を過ごす私は一人ではいられなくなっていて、どこかで母親が居なくてはだめという方向に。外食をするのにも母の隣となってきました。そんな時、父と妹と自転車・階段・すね事件が起こります。どうしても母が一日、同窓会か何かでまる一日家を空けるという、小3ぐらいの時です。一日母と離れなくてはいけないとなると、それが不安で不安でしょうがない。父と妹と一日過ごさなくてはいけなくなる。

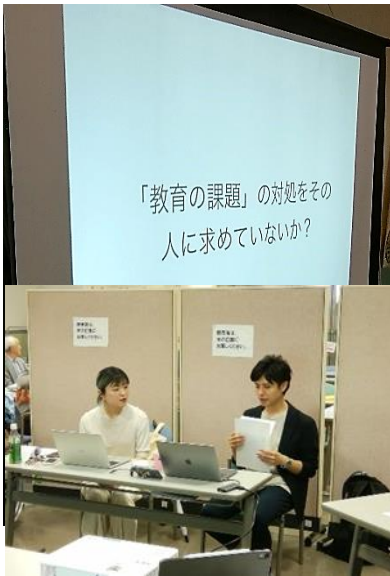
その日がきて父とサイクリングすることになり、自転車に乗って遠出をしました。不安ながらそれが楽しくって、夜はお父さんがカレーを作ることになり、作ってくれました。私の中での一日は、12時まで来た、15時まで来た、いける！いける！と思っていました。妹も小さいながら自転車に乗っていて坂を上って懸命に付き合いました。

夕飯ぐらいまで来てあとチョットとで一日が終わる。ところが、私の部屋が屋根裏部屋でめちゃくちゃ階段が急、上って私の部屋に行こうとしたら落ちてすねを思いきりぶつけました。父親がせっかくカレーを作ってくれ、3人で自転車で楽しい思い出をつくり、ところが落ちたことをキッカケに、痛いし不安だし悔しい。なんだか良く分からないで大騒ぎしてしまって「わー痛い」「死ぬ～」みたいな泣いて、せっかくのカレーの夜が終わり、妹があきれて死んだような目で見ていたのを何となく覚えています。その一日が終わって母が帰ってきたということなんです、けど。

今思うと父と行ったサイクリングとカレーはスゴイ平和な絵として残っているなど。

※後半は9月号に続く

3か所に分かれた応援団は、逗子は主にひきこもり問題に取り組み、鎌倉はLargoというフリースクールが活動しています。横須賀としてはテーマが決まっていなく、いつも通り集まってそれぞれのお話をして交流を深めていこうとやってきました。そこで今後こんなことをやっていこうとまとめましたので提案します。今までいじめとか不登校とか若者が抱える問題を考えてきましたが、これからは「生きづらさ」と表現して子ども若者応援団としては考えていこうと思っています。「生きづらさ」はいろんな要因、課題があって、それを対処すること、どうしていこうとするのかを僕は考えてきました。皆さんで話を聞いて考えてきたところ、例えば不登校はその人の課題ではなく教育の課題と考えました。「学校に行けない」はその人の課題。逆に考えると「学校に来られない」は学校の課題です。課題のゴールがあるとすれば「学校に来られない」のゴールは「学校に行く」



です。でも「学校に行けない」のゴールは「学校ではなく別のゴールがある」です。課題とは誰の課題なのか、それが何かすり替わっちゃっていないか？と僕は思いました。

「教育の課題」の対処をその人に求めているか？

他の問題にも当てはまるんじゃないかと思って、皆さん一緒に考えていきませんかというのが横須賀の応援団として取り組んでいきたい方針と思っています。これから皆さんで勉強していきましょうと提案させていただきました。その第一弾で松井麻実さんをお呼びしました。一緒に考えて行こうと思っています。横須賀応援団の今後の指針です。ご一考ください。

上町灯ろう夜市 by川辺



それぞれの風

○7月6日(土)、西へ出かけました。30年以上ひきこもり50代を迎えるご子息に思いをはせる母親に再会でした。5年前にアウトリーチを数回試み、市保健所との連携を作りつつも頓挫した相談、復活なりますか？ 家庭環境も変化していました。研究所立ち上げ以来の一つの悔恨に火が灯るか…。後日連絡をいただき、「少し会話が進みました」とも。そして11日(木)は北へ。複雑な家庭環境をかかえながらも誠実に愛娘に向き合う母親の相談でした。改めて生きること、その不安と共に歩む母子の葛藤の深さを実感でした。不登校が問題ではなく、自己を見つめる思春期の子どもへの寄り添う母の思いを実感でした。下旬は自宅研究所を月一回訪問してくる青年、場面緘黙を続けているが…彼に如何に寄り添えるのか？ 希望を抱きつつ。

○打ち合わせの日々 横浜市ユースを介しての講演依頼 2件とも小学校のPTA 活動の一環の講演会開催でした。役員さんとお会いし「川崎や練馬の事件を聞いて子どもが抱える成長の課題に不安を覚えます…」「話したがない寡黙な思春期の子どもとの接し方は？」という真摯な日常の問い、「大人の問題ですね！」と問い返しました。10月が楽しみです。

○Largo さなぎ上映会 7月20日(土)は鎌倉深沢ふかふか(水澤麻美さん)でドキュメンタリー

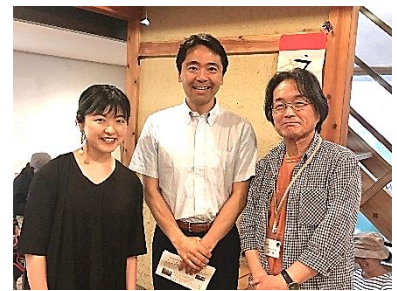
水澤代表さん

三浦監督さん



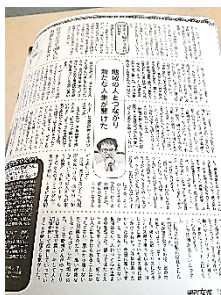
映画「さなぎ～学校に行きたくない～」(三浦淳子さん監督・撮影・編集)、30人+スタッフ and 松尾崇鎌倉市長さん参加の小さな上映会でした。梅雨の明けない曇天の重い空気…見る子見ない子、小さな子どもたちも参加して爽やかな癒しの Largo(小林由起さん等)を実現してくれました。約12年かけた三浦監督が木下愛ちゃん家族に寄り添い

制作された作品、不登校のリアルな成長記録でした。食と時間と家族・家庭と学校と友達と飯田盆地の自然が織りなす、愛さん(小3～大学4年)の人生ドキュメンタリー。教訓や提言も、ましてや批判もない作品。学校へ行かないを包み込む作品でした。不登校経験者である仲間の asamicro さんも参加し、監督とのトークで発言されました。逗子や横須賀でも上映したいと三浦監督にお伝えしました。と言うのも、逗子ゆずり葉の橋本由美子さんは中高の同級生とのこと♡ 縁は異なるものです。



Asamicro さん 松尾市長さん & 僕

○7月23日発行の週刊女性 初めて女性週刊誌を購入した。ひきこもり発信プロジェクト(逗子子ども若者応援団)に2年前から取り組んでいる新井秀浩さんのインタビュー記事が掲載されました。穏やかな新井さんの人柄がふんだんに紹介され、不登校・ひきこもりの 平和を愛する人生が描かれています。先日発表された刑法犯も3万4581件も減少し“健全化社会”が加速する現状、事件が起こると「障がい」「ひきこもり」と重ねて報道される昨今の意味のない原因探しに、清涼感あふれる記事となっています。ご一読を♡ 社会の閉塞感、教育と働く義務の問題点を問いたいです。



○ダンスイベント協賛のお願い 11月3～4日 in 渋谷 Cappuccino 自主公演「Laundry」を開催する案内を、巻頭講演の asamicro さんからいただきました。横須賀市・逗子市・鎌倉市から首都圏エリアで若者3人のダンスイベントを応援頂ける事業者・NPO・個人に協賛のお願いをいたします。今月は asamidro さん満載ですがアーティスト応援ください。連絡は研究所まで。

HP「朝ごはんダンス」にアクセスを！ asamicro <https://www.facebook.com/asami.matsui.50>

8月予定 ○3日(土)～10日(土)原爆展示会 in 横須賀サポートセンター 6日(火)広島原爆忌 9日(金)長崎原爆忌 10日(土)原爆を語る会 in 総合福祉会館 15日(木)74回敗(終)戦忌 ○17日(土)13:30～逗子応援団:ゆずり葉の会:橋本由美子 in 逗子市民交流センター ○18日(日)13:30～よこすか・ゆめ・みらい in 三浦学苑高校 18～20広島帰郷 ○24日(土)子ども障がい・告知を考える in 戸塚フォーラム(県子ども医療センター) ○25日(日)14:00横須賀応援団会議:龍崎明信 in 横須賀市民活動サポートセンター

13:30逗子応援団:ひきこもり発信プロジェクト:新井秀浩 in 沼間コミュニティセンター
○研究所開催日1(木)・8(木)・29(木)日 ○鎌倉市2・9・13・14・16・23・27・28・30日

【発行編集:滝田衛】住所:鎌倉市七里ガ浜東2-31-12 携帯:09072124055

●メール:qq5656r9@happytown.ocn.ne.jp ●研究所:<http://shichirigaoka-lab.jimdo.com/>

●応援団:<https://www.facebook.com/kodomowakamono.ouendan/>